

道の駅アリストぬまくま再整備基本計画（素案）に係る  
パブリックコメントの実施結果について

## 1 意見募集の概要と結果

### (1) 概要

#### ア 公表資料

道の駅アリストぬまくま再整備基本計画（素案）

#### イ 公表場所

・福山市ホームページ

・農林水産課、市政情報室、松永・北部・東部・神辺市民サービス課、鞆・沼隈・内海・芦田・加茂・新市支所、  
走島・内浦・山野・広瀬分所、水呑・熊野分室

#### ウ 意見の募集期間

2026年（令和8年）2月12日（木）～2026年（令和8年）3月13日（金）

### (2) 結果

#### ア 提出数

3通（電子メール2通、持参1通）

#### イ 意見数

9件

① 計画に反映するもの 1件

② 市の考え方を説明するもの 3件

③ 今後の施策の参考とするもの 5件

※1通に複数の意見が記載されている場合、意見の内容ごとに整理しています。

## 2 意見の内容及び市の考え方

### ① 計画に反映するもの（1件）

No.	項目	意見の内容	件数	市の考え方
1	11 ページ 2.5.(2) 南部地域をモデルエリアとした周遊観光	「しおまち海道サイクリングロード」のことも記載してほしい。それにより、再整備後のサイクリストのための施設整備につなげてほしい。	1	本施設の周辺状況を説明する項目に、広域的なサイクリングルートである『しおまち海道』に関する記述を追加します。また、再整備後のサイクリストのための施設整備については、18 ページに記載のとおり、新たにメンテナンススペースや、駐輪スペースを整備する予定であり、その他サイクリストの受け入れに必要な機能については、今後の観光戦略や実証実験の結果を踏まえ、検討を進めてまいります。

### ② 市の考え方を説明するもの（6件）

No.	項目	意見の内容	件数	市の考え方
1	19 ページ 表 3-3 導入機能の整理 道の駅従事者のための機能	スムーズな納入経路の確保（お客様の妨げにならないよう）、搬入口への自動ドアの設置、野菜・果物コーナーの明確な区分が必要だと思ふ。	1	道の駅の円滑な運営のためには、出荷者・納入者の皆様の作業環境にも配慮が必要であると認識しています。ご要望いただいた搬入経路の確保や設備のあり方、売場のレイアウトの詳細については、本基本計画に基づき今後進める設計段階において、効率性や安全性の観点から検討してまいります。
2	21 ページ 3.3.1.(1) 図書館との連携	再整備に当たって、図書館との連携を図るのはとても良いことだと思ふ。 ついでに、いまの多目的広場を駐車場化するのではなく、「図書館と道の駅を結ぶ」「子どもたちや子育て家族が集い過ごせる」「地域団体や	1	本計画では、現在の多目的広場は、20 ページのモデルプラン（図 3-2）に示す通り、新たな活動を創出する『施設整備エリア』として位置付けています。 本エリアの活用については、21 ページ

		企業がまちおこしのためのイベントができる」エリアにしてほしい。		『3.3.1.(1)図書館との連携』に記載の通り、隣接する福山市沼隈図書館との物理的・機能的な連携を強化することで、読書と休憩が融合した滞在空間の創出など、公共施設同士の相互利用による相乗効果と地域コミュニティ拠点としての魅力向上を図ることとしています。 ご提案いただいた、子どもたちや子育て家族がゆったりと過ごせる環境づくりや、地域団体・企業によるイベント活用についても、こうした方針に基づき、今後の設計段階において具体的な空間構成を精査してまいります。
3	25 ページ 4.2.2 発注方式選定	本事業は分離発注方式が想定されているため、設計段階から指定管理者など運営主体との連携を図り、売場構成や動線計画、バックヤード機能など運営視点を十分に設計へ反映させる体制づくりが重要であると考えます。	1	本事業において、効率的な施設運営と利便性の高い施設整備を両立させるためには、運営の視点を設計に反映させることが重要であると認識しています。今後、動線計画やバックヤード機能など運営視点を踏まえた設計に取り組んでまいります。

③ 今後の施策の参考とするもの（5件）

No.	意見の内容
1	今までは大型バスが駐車場に入ることが出来なかったので、大型バスが入れる駐車場を整備されるのはとても良い。
2	沼隈地域には想青学園や常石ともに学園など地域の学校があり、未来を担う子どもたちが 地域の中で学び成長する環境があります。これらの学校と連携し、地域の歴史や産業、文化を学び体験する場として活用することで、地域に根ざした人材育成につながる拠点となることを期待します。
3	道の駅を地域の実証実験や新しい取り組みの場として活用し、地域企業や学校、住民と連携した活動を行うことで、地域課題の解決や新しい価値の創出につながる可能性があります。 地域の知恵と実践が集まる拠点としての役割を期待します。
4	施設整備にあたっては、広島県産材の活用など地域資源を活かした施設づくりを検討することで、環境負荷の低減や地域経済の循環につながると考えます。また、木材を活かした空間は温かみのある滞在環境を生み出し、地域の風土を感じられる拠点づくりにも寄与するものと期待します。
5	ライフサイクルアセスメント（LCA）や建築資材に伴う環境負荷（エンボディドカーボン）への配慮など、長期的な視点で環境負荷の低減を図る取り組みを検討することで、持続可能な施設整備につながることを期待します。